

重点項目		取組実績
項目名	対 策	
1 死因究明及び身元確認に係る業務に従事する警察等の職員、医師、歯科医師等の人材の育成及び資質の向上について	各機関において、死因究明等に係る業務(検視、検案、解剖、歯牙鑑定、死亡時画像診断等)に従事する人材の育成及び資質向上を目的とした研修会等の取組みを継続的に行う。また、他機関が開催する研修会、複数の機関が共同で開催する研修会等に積極的に参加する。	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捜査員を対象に、巡回教養、検視専科、検視講習を実施した。 ・中四国管区検視官会議に出席して、事例を発表し情報を共有した。 ・全国検視官会議に出席して、全国の事例を把握して知識向上を図った。 <p>【海上保安部】</p> <p>第五管区海上保安本部では、毎年、兵庫医科大学と和歌山医科大学の法医学講座に研究生として職員を1年間在籍させ、検視に従事する職員の育成に努めているほか、高知県警察本部の検視実務専科に、海保職員を聴講生として受け入れていただき、人材育成を図っている。</p> <p>【医師会】</p> <p>令和7年度高知県医師会死体検案(基礎)研修会を令和7年11月15日に行った。序説「医師会の検案業務について」伊与木増喜常任理事、第1部「警察における検視実務」について高知県警察本部刑事部捜査第一課検視官室長 池添雅洋氏、第2部「身元確認作業における歯科事情」について高知県歯科医師会常務理事 濱田敏裕先生、第3部「薬毒物関連死の死体検案について」について高知大学医学部法医学教室講師 西村拡起先生の講演が行われた。</p> <p>【歯科医師会】</p> <p>7月31日に警察学校にて、警察官、海上保安庁職員対象に身元確認講習会、実習を開催。9月28日に、熊谷章子講師を招聘し、警察官、海上保安庁職員、歯科医師を対象に身元確認研修会、訓練を実施。10月30日に、県警との協議会を開催。</p> <p>【放射線技師会】</p> <p>第4回Ai研究会を行った。田野病院での症例について、Ai撮影のプロトコル化についての発表。Ai画像を用いて、Ai画像1枚から読み取れる所見をAiチェックシートを用いて読影・班ごとに分かれて発表した。</p> <p>【法医学教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察官、海上保安官および高知地方検察庁職員等に対し法医解剖に関する教育講演を行った。 ・県内の初期臨床研修医(1年目)の共通オリエンテーションにおいて死亡診断書(死体検案書)の書き方等に関する教育講演を行った。 ・高知県医師会死体検案(基礎)研修会において教育講演(「薬毒物関連死の死体検案について」)を行った。 <p>【県】</p> <p>医師養成貸付金制度において、法医学領域に従事する医師を償還免除の対象とすることで、法医の確保を図っている。</p>
2 警察等における死因究明等の実施体制の充実について	死因が犯罪行為に起因するものであるかどうかという判断のみならず、自殺や労災事故の予防、感染症の早期発見等、公衆衛生の向上を念頭にした対応に万全を尽くすため、異状死体の取扱業務に従事する警察官や海上保安官に対する検視技能向上を図るとともに、薬毒物定性検査を迅速かつ的確に実施できる科学捜査研究所の体制整備を充実させる。また、人員体制及び科学捜査機能を充実するための取組みを継続的に行う。	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検視事案を認知した際、画像伝送システムを活用して、早期に現場の状況を把握し、検視官臨場の判断、捜査員に対する指揮を行っている。 ・薬物関係(アイベックススクリーン)の検査実施数は829体(R7. 11月末時点死体取扱総数の74.7%) ・積極的な解剖を実施し、解剖数は88体(R7. 11月末時点7.9%) <p>【海上保安部】</p> <p>高知海保では、死体を取り扱う現場には、検視官に指名された者が必ず臨場し、現場捜査員への指導を行っている。薬物検査(アイベックススクリーン)の検査実施数は、高知海保で取り扱った2体全てで実施。</p>
3 死体の検案及び解剖の実施体制の充実等について	①死体検案に従事する医師の継続的な確保に努める。(医師会、県警、海上保安部) ②高知大学医学部法医学教室は、県内で唯一の法医解剖の実施機関であり、法医学教育・研究の拠点でもある。同機関の機能充実と長期的な人材確保に努める。(法医学教室) ③在宅での看取りに円滑に対処するには、適切な看取りの仕組み作りが必要になるため、関係機関との連携・協力のあり方等について検討する。(医師会、県警、県)	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察協力医会会員の現在の会員数は47名 ・警察協力医会会員による検案は1010体(R7. 11月末時点91%) ・警察協力医会会員以外の医療機関にも理解を得て、遺体の持ち込み検案やCT検査を行っている。 <p>【海上保安部】</p> <p>事案によっては、搬送先の医療機関において検案、CT撮影の協力を得ている。不搬送のものについては、保安部近郊の医師に死体検案への従事を依頼している。</p> <p>【医師会】</p> <p>令和7年度高知県医師会死体検案(基礎)研修会を令和7年11月15日に行った。序説「医師会の検案業務について」伊与木増喜常任理事、第1部「警察における検視実務」について高知県警察本部刑事部捜査第一課検視官室長 池添雅洋氏、第2部「身元確認作業における歯科事情」について高知県歯科医師会常務理事 濱田敏裕先生、第3部「薬毒物関連死の死体検案について」について高知大学医学部法医学教室講師 西村拡起先生の講演が行われた。</p> <p>【法医学教室】</p> <p>①常勤職員3名(うち医師2名)で検案および解剖に対応している。また、当教室の大学院生として医師2名および検査技師1名が在籍している。</p> <p>【県】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)人生の最終段階における医療・ケア検討会議の開催(1回) (2)人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体、医療機関が行う講座に対して講師を派遣(ACP講座5回) ・市町村職員、あったかふれあいセンター職員等を対象に情報交換会を開催(1回) (3)一般住民を対象とした講座 <ul style="list-style-type: none"> ・県政出前講座(高知市1回、香美市1回、いの町1回、黒潮町1回 計4回) ・各福祉保健所圏域での住民向け講座(四万十町1回、津野町2回、安芸市1回、田野町1回 計5回) ・企業での職員向け講座(高知市2回) (4)広報 <ul style="list-style-type: none"> ・人生会議啓発リーフレット(初級編…4,649部、元氣編…7,920部、退院編…2,450部、親子編…11,265部)を市町村や医療機関、介護施設等へ配布 ・人生会議啓発リーフレット(初級編、元氣編、退院編)の見直しを実施 ・コンビニやドラッグストア等へのリーフレットの配布やデジタルサイネージ等への掲示を実施

重点項目		取組実績
項目名	対 策	
4	薬物及び毒物に係る検査、死亡時画像診断(Ai)その他死因究明のための科学的な調査の活用について	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学捜査研究所による薬毒物検査等の各種鑑定を実施し、迅速な結果回答を得ている。 ・簡易薬毒物(アイベックススクリーン)、青酸化合物簡易検査(シアンチェック)を実施している。 ・Aiの実施件数は926体(R7. 11月時点83.5%) <p>-----</p> <p>【医師会】</p> <p>令和7年度高知県医師会死体検案(基礎)研修会を令和7年11月15日に行った。序説「医師会の検案業務について」伊与木増喜常任理事、第1部「警察における検視実務」について高知県警察本部刑事部捜査第一課検視官室長 池添雅洋氏、第2部「身元確認作業における歯科事情」について高知県歯科医師会常務理事 濱田敏裕先生、第3部「薬毒物関連死の死体検案について」について高知大学医学部法医学教室講師 西村拡起先生の講演が行われた。</p> <p>-----</p> <p>【放射線技師会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ai検査を実施していない医療機関への啓発活動 2. Ai検査を実施する診療放射線技師のスキルアップ 3. 医療安全および医療事故等の観点からのAi実施基準の策定 <p>-----</p> <p>【法医学教室】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ブライントテストに参加することで薬毒物分析精度の維持や向上に努めている。 ②解剖事例および当院の死亡事例に対し、専用のCT画像読影システムを活用し死後CT画像の読影を実施している。
5	大規模災害発生時等の身元確認及び死体検案作業への対応について	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中四国管内の県警による合同訓練に参加し、発生時の死体検案作業の訓練を実施した。 ・高知市主催の遺体安置所研修に参加予定(令和8年2月28日実施予定) ・大規模災害時の遺体検案の際に使用する装備資機材(浄水装置1台)を追加購入。 <p>-----</p> <p>【海上保安部】</p> <p>高知県警察・高知県歯科医師会連絡協議会の研修でのデンタルチャート作成実習に、海保職員も参加し技能向上に努めた。</p> <p>-----</p> <p>【医師会】</p> <p>令和7年度高知県医師会死体検案(基礎)研修会を令和7年11月15日に行った。序説「医師会の検案業務について」伊与木増喜常任理事、第1部「警察における検視実務」について高知県警察本部刑事部捜査第一課検視官室長 池添雅洋氏、第2部「身元確認作業における歯科事情」について高知県歯科医師会常務理事 濱田敏裕先生、第3部「薬毒物関連死の死体検案について」について高知大学医学部法医学教室講師 西村拡起先生の講演が行われた。</p> <p>-----</p> <p>【歯科医師会】</p> <p>デンタルチャートは全国的に統一化されているが、実際に南海トラフ地震が発生した場合、その規模から国内だけの歯科医師で身元確認作業が可能かどうか危惧を感じている。その場合インターボールの介入も視野に置いておかなばならず、インターボール版デンタルチャートによる訓練も必要ではないかと考えているところである。</p> <p>-----</p> <p>【放射線技師会】</p> <p>Ai→STATについて、読影補助Aiチェックシートを活用できるよう、学会などで配布した。大規模災害に対してAiに活用していきたい。大規模災害時に勤務地と異なる居住地の技師の活用を検討した。</p> <p>-----</p> <p>【法医学教室】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医学部総合防災訓練に参加し、黒エアを担当した。また、解剖業務や研修会等を通じて、各機関との連携の維持や強化を図っている。 <p>-----</p> <p>【県】</p> <p>(1)広域火葬連絡協議会(11/7)</p> <p>参加者:県医師会、県歯科医師会、市町村、火葬場設置者、葬祭関係事業者、県警察本部、県保健所、県業務衛生課</p> <p>協議事項:高知県広域火葬計画Ver.2.0への改定について</p> <p>(2)広域火葬情報伝達訓練(11/26、27) ※四国4県広域火葬情報伝達訓練を同日で実施</p> <p>参加者:各市町村、火葬場設置者、葬祭関係事業者、県保健所、県業務衛生課</p> <p>訓練内容:広域火葬受入調整、物資(棺、ドライアイス等)の要請・応諾(広域火葬計画Ver.2.0に基づき情報連絡体制を変更して初めて実施)</p> <p>(3)広域火葬対応に関する研修会(2/18予定)</p> <p>参加者:(1)と同じ</p> <p>講演:「令和7年度広域火葬対応に関する研修会」</p> <p>講師:NPO法人災害時警友活動支援ネットワーク 代表理事 竹内直人氏</p>
6	死因究明により得られた情報の活用及び遺族等に対する説明の促進について	<p>【県警・検察庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検視専科では、医師等による専門的教養の他、実践的な検視要領を習得するための想定訓練を実施した。 ・解剖前のCT画像データを執刀医に確認してもらい、解剖時の参考として有効活用している。 ・検視、解剖後には担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している。 <p>-----</p> <p>【海上保安部】</p> <p>上部機関等において研修会が実施される場合は職員を参加させる。</p> <p>-----</p> <p>【医師会】</p> <p>-----</p> <p>【歯科医師会】</p> <p>実際の災害発生時の想定で、各関係機関が合同訓練を実施することが必要でないかと考えている。</p> <p>-----</p> <p>【放射線技師会】</p> <p>Ai検査技術向上とAi読影能力向上のため、今後もAi技術研究会を開催し、診療放射線技師の興味喚起と資質向上に努めたい。</p> <p>-----</p> <p>【法医学教室】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①当教室内における症例検討会を通じて、Aiによって得られた所見を解剖診断時に活用している。また、高知県警察協力医会総会において事例検討研修会を実施した。